平成２７年度　第５回鎌ケ谷市障がい者地域自立支援協議会
「発達支援部会」会議録

日　時　平成２８年 ２月 １日（月）午後４時３０分から午後６時まで

場　所　鎌ケ谷市総合福祉保健センター４階研修室

出席者　菅谷幸乃部会長、平沢真哉副部会長、福田弘子部会員、
土屋知子部会員、林恵利部会員（鎌ケ谷市健康増進課主任保健師）、
佐藤佳子部会員（鎌ケ谷市こども発達センター分室主幹）、
松村幸江部会員、須鎌ひろみ部会員、
岩田友理子部会員（鎌ケ谷市障がい福祉課主任保健師）

欠席者　星山伸夫部会員、野中幹子部会員（鎌ケ谷市学校教育課副主幹）

事務局
（障がい福祉課）斉藤実障がい福祉課長、藤嶋晶子係長、中村浩主任主事
（もくせい園）　三浦幸嗣、花田聡子

公開・非公開の区分　非公開

傍聴者　０名

添付資料
・式次第
・第３回第４回部会における事例概要　（非公開）

１　挨拶

事務局より、本日の出席者数が会議開催の定足数である過半数を満たしていること、並びに傍聴者が０名であることを報告した。

２　議題

部会長　本日の会議では、第３回、第４回の部会でおこなった事例検討を踏まえて、今後発達支援部会でどのようなことを検討していくのか協議したいと思う。まずは、第３回、第４回の部会での事例検討について、副部会長より説明いただきたい。

事例検討について（非公開）

副部会長　これら事例の内容を踏まえ、打合せでは「サポートファイルのさらなる普及を図ること」が今後のテーマになるのではないかという結論に至った。これまでの検討を通して、このほかに意見があれば出していただきたい。

（部会員からの意見なし）

副部会長　意見がないようなので、次年度は、サポートファイルをどのように活用していけば良いかを中心に検討していきたいと思う。せっかくなので、サポートファイルの活用方法について部会員の意見を伺いたい。

（部会員からの意見）

部会員　サポートファイルで、就学前の情報が引き継がれるのは良いことだが、就学後に学校で配付される同様のファイルと書式が違うと活用しにくい、学校用の物をサポートフィルにするのはどうか。

事務局　サポートファイルの検討の端緒は、教育委員会で配付していたファイルと子ども発達センターで配付していたファイルとが、書式の異なる類似したものであったため、これを統一したいというところからスタートしたもので、昨年の「サポートファイル」の完成により２つは統一された。現在の配布状況を子ども発達センターの佐藤部会員から報告いただきたい。

佐藤部会員より

サポートファイルは、昨年６月に１,０００部作成し、小中学校に３６６部（各小中学校に希望部数を確認し配布）、教育委員会に約５０部、保育園・幼稚園等の関係機関に約４０部、発達センターで直接配布したもの約１０

０部、みちる園に６０部、計６１０部程度が配布済みである。また、市のホームページからもダウンロードできるようになっている。

部会員　使い勝手について反響などはあるか。

説明者　使い勝手についての反響はまだ無いが、記載する担当者からは、書くスペースが増え詳しく記載できるとの話はあった。

部会員　１歳半や３歳の検診を受けて疑問を感じたら、必ず発達センターを受診するのか。

説明者　検診で疑問を感じたほとんどの子どもは発達センターに繋がる。サポートファイルは、発達センターに関わる全ての子どもに配付出来れば良いが、現在は、ライフステージが変わる子どもにのみに配付している。また、特別支援学級に通学している子どもたちに対しても学校から配付されていると思う。

部会員　検診で症状が確認されず、普通学級に行った場合は、サポートファイルは配付されないのか。また、親がサポートファイルを拒否した場合はどうなるのか。

説明者　普通学級に進学した場合、配付されない可能性はある。親にはサポートファイルの説明や案内を行うが、要らないと言われることもある。その場合は、何度か面談を行い信頼関係ができてから再度配付する等の対応を行っている。

部会員　母子手帳のように全員に配付してはどうか。困ったときに記入することができれば、入学時や成人になって療育手帳を取得する場合にも活用できる。

部会員　親が症状を把握していない場合など、サポートファイルを受け取る環境になく、そのまま社会に出てしまう人もいる。

副部会長　サポートファイルは、本人や家族が記入する形であるため、配付も無理強いはできない。また、配付されたことで傷つく可能性もある。学校では他の子ども達と様子が違う子どもに対し、書類や通知表に様子を記載しているのか。

部会員　支援学級の子どもは、個別支援計画を作成し対応している。普通学級でも支援の必要な子どもに対し個別支援計画の作成を進めている。平成２８年４月に障害者差別解消法が施行されたが、個別支援計画を作成することで合理的配慮につながるのではないかという考えもある。個別支援計画は、市によっても進み方がかなり違うので、まだ全般的に浸透しているとはいえない。

副部会長　統一した書式の一つとしてサポートファイルを使用するのは難しいか。

部会員　学校側が作成している個別の支援計画は学習活動を中心としているが、サポートファイルは個人の特性を記載しているので、そこには違いがある。ただ、サポートファイルに学校で立てた支援計画を記載する市はあると聞く。

副部会長　支援計画を記載したサポートファイルを、次のライフステージに引き継いでいけば、本人に対して一貫した支援が行える。病院の主治医や保育園の先生からの話をファイルに記載する等、本人の様子がわかるような使い方をしてもらいたい。

部会員　サポートファイルは記録をとるきっかけになる。ただ、障がいがあるかどうか、はっきりしない段階でファイルを渡すタイミングは難しい。

部会員　障害年金申請の際に状態を記載する上で、サポートファイルは活用できると思う。現在、教育委員会と連携して支援する動きが進んでいると実感している。サポートファイルも一つのツールであり、悩みは小さいうちから相談できるような体制を整えることが必要だと思う。早期支援が重要になる。

部会員　発達障がいやその疑いと診断される人が増えており、専門病院や発達センターが混雑している。このため、専門家だけでなく地域でも対応するために、キャスではペアレント面談を実施している。地域で支えていける体制を目指せれば良い。また、保護者自身に障がいがあり、相談やサポートファイルの記載ができない場合もある。そのような人たちへの支援も必要になる。

部会員　そのような保護者の対応はどうしているのか。

部会員　子育て総合相談室が支援すると思われるが、状況により発達センターや健康増進課も関わる場合もある。

部会員　子どもの将来も大切だが、保護者の不安を取り除くことも重要である。保護者の繋がりは、子どもが小さい時からあると良いと思う。

副部会長　支援に繋がらなかった子どもの対応については、コーディネートが必要ではないかとの意見があったが、繋ぐためには、本人の成育歴等の情報が必要である。サポートファイルについては、母子健康手帳のような、大人になっても長い期間使えるような書類になっていけば良いと感じた。また、サポートファイルは、障がいの無い人にも受け入れられ、活用してもらえるか、ということも来年度の課題になると思われる。

部会員　サポートファイルを効果的に活用するために、市によっては、記入のための学習会、サポートファイルの目的についての研修会を開催している所がある。ただ、勉強会に参加しないと記載できないものになってしまってはいけない。

部会員　母子健康手帳の記載を確認した際、ちゃんと記入している保護者と、まったく記入していない保護者の差が大きい。なかには、子どもの名前も記入していない保護者もいる。サポートファイルを全員に配布しても記入しない保護者は出てくると思う。予算や効果についても検討する必要はあると思う。

部会員　いろいろな家庭があるので、その家庭をどのようにサポートしていくか、障がい福祉課だけでなく他の課と連携していくのが大切ではないか。

副部会長　来年度は、このような話も踏まえ、障がいの有無の問題だけでなく人間の発達としてサポートしていくために、サポートファイルを活用していきたい、また、サポートファイルをどのように浸透させていくかを検討していきたいと思うがよろしいか。

【異議なし】

来年度に向け、それぞれが上記の件についてアイデアを考え話し合っていきたい。

部会長　次回開催日については、後日、報告する。

以上で本日の会議を終了とする。

以上、会議の経過を記録し、相違ないことを証するため次に署名する。

平成２８年２月１日

氏　名　　菅谷　幸乃

氏　名　　平沢　真哉